第20回学術総会／パネルディスカッション2—Panel Discussion 2

超音波検診の現状、問題点とその解決策

J-START からみえてきたもの

東北大学大学院医学系研究科腫瘍外科学分野

石田 孝宣 河合 賢朗 玉城研太郎 成川 洋子

大内 憲明

要旨：乳癌は40歳代で罹患の増加が著しいことから、死亡率減少に向けた対策が急務である。現行のマンモグラフィ検診では、高濃度乳房での検診精度が劣るため、超音波の検診への導入が検討されているが、有効性(死亡率減少効果)は検証されていない。本研究は第3次対がん総合戦略研究事業(がん対策のための戦略研究：J-START)として、超音波による乳癌検診の標準化、及びマンモグラフィ検診に超音波を併用する介入群と併用しない非介入群の各群5万人で、有効性を検証するランダム化比較試験である。研究期間が4年のため、プライマリエンドポイントを感度、特異度及び発見率とし、セカンダリエンドポイントを追跡期間中の累積進行乳癌罹患率とする。

現在のところ、約7万人がこの試験に参加しており、その約96%が、個別及びクラスターランダム化で割り付けされている。わが国で初めての大規模臨床試験であり、国内外から大きな注目を集めている。本試験を遂行するにあたり、受診勧奨や追跡の方法と効果などでみえてきたものがある。これらをふまえて検診の現状と問題点、今後の展望について報告する。

【文 献】

- 1) Ohuchi N, Ishida T, Kawai M, Narikawa Y, Yamamoto S, Sobue T : Randomized controlled trial on effectiveness of ultrasonography screening for breast cancer in women aged 40–49 (J-START) : research design. Jpn J Clin Oncol. 2011Feb ; 41(2) : 275–7. Epub 2010 Dec 2
- 2) 大内憲明, 河合賢朗, 成川洋子, 玉城研太郎, 石田孝宣 : 大規模臨床研究の更なる発展に向けて : がん対策のための戦略研究. 東北医誌, 122(1) : 13–18, 2010